

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：大竹中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
大竹市立大竹中学校	11	297
大竹市立大竹小学校	22	635

(R4.1.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

本質的な問いにせまる課題を主体的に解決しようとする児童生徒の育成

～リフレクションを活用した生活科、総合的な学習の時間の探究的な学びを通して～

児童生徒が「解決したい」「探究したい」と思える課題を設定し、テーマとの出会いや活動内容を工夫していく。また、活動の中で思考ツールやリフレクションシートを効果的に活用し、振り返ったことを次の学び、他の場面で生かしていく。その際、児童生徒の活動を客観的に評価し、目指す児童生徒像に近づいているかどうかを適切に評価するために、ルーブリック評価を効果的に活用し、児童生徒の学びに向かう「主体性」及び「課題発見・解決能力」を高めていく。

(2) 資質・能力の設定について

本中学校区の児童生徒の実態として、1年次では重点的に育てたい資質・能力を「主体性」「思考力・判断力・表現力」として取り組んできた。2年次は1年次の取組を終えての成果と課題を踏まえて、より活動の主体が児童生徒となるような探究的な学習を目指すために、「主体性」と「課題発見・解決能力」の二本柱として取り組むこととした。

(3) 取組について

①探究的な学習の充実に向けた取組

- ア 理論研修
- イ 単元計画
- ウ 授業づくり
 - ・授業展開や活動の工夫
 - ・リフレクションの効果的な活用
 - ・思考ツールの効果的な活用
 - ・ルーブリック評価の活用
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・取組の掲示・共有
 - ・「資質・能力系統表」の改善・活用

②小中連携の取組

- ア 小中連携ミーティング

中学校区で連携して研究を進めるためにミーティングを定期的に行った。各校の管理職と研究主任が集まる「大竹中学校区リーダー会」を適宜開催し、研究の柱や進め方などの連携をした。また毎週、小中の研究主任が「研究推進ミーティング」を行い、直近の研修の計画等の細やかな打合せ等を行った。

イ 小中合同校内研修

今年度6回の小中合同校内研修を行った。県立教育センターの「学校サポート研修」に申し込み、理論研修も深めた。そこで理論的に学んだことを実際の授業の中で活用し深めた。合同で研修を行うことで小中の共通認識を深めながら共に同じ方向を目指して取り組むことができた。

ウ 大竹小中学校「育てたい資質・能力」系統表

重点をおく資質・能力について、それぞれの学年の終了時に、どのような力の獲得を目指すのかということをお中9年間で系統立てて作成した。今年度から、重点を置く資質・能力を「主体性」と「課題発見・解決能力」としたので、1年次の系統表の一部を見直した。

エ ルーブリック評価の活用

「育てたい資質・能力表」「単元の目標」等を元に、単元のルーブリックを作成した。評価規準のAとBの違いを明確化すること、客観的な見取りのために児童生徒の行動面に着目すると良いこと等を学んだ。

2 実践事例

(1) 支援の工夫

小学校 1年生 生活科

「じぶんでできるよ～かぞくスマイル大きくせん！ぼく・わたしにまかせて！～」

1年生が「家族スマイル大作戦」を実行する中でさまざまな支援を工夫した。カエルが跳んで進む学習計画表で活動の見通しをもたせる。お手伝い発表会を行い取組の交流をする。お手伝いの様子を動画や写真で示し、その後の活動のヒントとした。リフレクションは活動ごとに記入したり、活動全体を振り返って書いたりした。行ったお手伝いは、「スマイルチャージ」としてワークシートにシールを貼付して貯めるようにした。これらの支援の工夫によって児童は少しずつ自信をもち、活動への意欲や充実感を高めていった。児童の意欲は持続し「冬休みも続けよう」という気持ちだが、『スマイル作戦』でなくても取り組みたい」と常時活動として続いていった。

(2) 地域の教育資源を活用

小学校 3年生 総合的な学習の時間

「ぼくたちわたしたちの大竹大発見～大竹のおいしい物を見つけよう～」

3年生は大竹市のステキを見つける中で、食に焦点をあて、学年で取り組んでいる米作りの経験を生かして「大竹のおいしさを伝えるための給食メニュー考案」に取り組んだ。地域の農家の方や日本料理店のシェフ、栄養教諭等さまざまなゲストティーチャーから大竹の食材についての情報収集を重ね、お米を生かし大竹の食材のおいしさが伝わるようなメニューを考え、グループで協働的に学習を進め学習発表会で発表した。「がんばれ大竹ちりめんごはん」等、生産者の思いを込められるように、メニュー名も工夫した。実際に3月に市内の学校給食に出されることが決まり、児童は充実感をもつとともに、ゲストティーチャーからの学びなどを通して地域に

いての知識や愛着を深めていった。

(3) 活動の見通しをもたせる工夫

小学校 5年生 総合的な学習の時間

「笑顔広がれ大竹のまち～高齢者とつながろう～」

5年生は大竹市に生活している人々の中で、笑顔になるためにサポートが必要な人々の存在に気づき課題を設定した。そして高齢者の笑顔を広げるために、自分たちにできることを考え、心を込めたプレゼントを作ったり、歌声をCDにしたりして届けた。活動の見通しをもたせることで、児童の主体性を引き出したいと考え、児童と考えた活動の流れを「見える化」した。模造紙大の掲示物と同じ物をプリントして児童にも持たせた。毎時間のワークシートは一枚で振り返りも書く形にし、振り返る時には、次の学習の見通しも記入した。そうすることで、前の学習を踏まえて次の学習をスタートすることができた。ワークシートはポートフォリオの役目も果たしている。毎時間の始めに、めあてと共に取り組むポイントや目標を伝え、ルーブリックによって目指す姿を児童と共有した。授業の終わりに振り返りをする時には児童が自己評価を行った。

(4) 協働的な学びを促す工夫

中学校 3年生 総合的な学習の時間

「伝われ！竹中の伝統～大竹中の伝統を伝えよう！～」

コロナの影響で大竹中学校で受け継がれてきた伝統が薄れつつあるということに気付かせ課題を設定した。ゲストティーチャーである卒業生や校長先生の話聞き、グループでタブレットを活用して情報収集を行った。どのように後輩に伝えるか情報を元に分析、リーダーを中心に話し合い整理した。最終的に文化祭で後輩の前で思いを表現することができ、後輩の振り返りシートを披露すると、自己有用感を感じた様子だった。後輩に思いを届けたいという気持ちでクラスが一つにまとまり、リーダーを中心に場面ごとに役割を決定したり、台本を作成したりする等、協働的に学ぶ活動を仕組み、生徒の協働性を高めるようにした。また、授業毎にリフレクションシートに「次時に必要なこと」を記入させ、見通しをもたせた。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

<生活・総合教職員アンケート(2学期)の肯定的回答(%)>

項目	小学校	中学校
学習内容の工夫	100	100
思考ツールの活用	87	62
リフレクションを次に生かす	87	70

小中の教職員で共通認識をして、研究の重点を意識した探究的な学習の単元開発を進めたことにより、教職員アンケートの「学習内容を工夫」し、児童生徒の「主体的」「協働的」な活動を引き出したとする肯定的評価の数値が高かった。このことから、大竹中学校区で組織的に研究を進めていく基盤ができていると考える。

<生活・総合児童生徒アンケート(2学期)の肯定的回答(%)>

項目	小学校	中学校
大竹の良さや課題に気付いた	92	84
自分で考え取り組んだ	91	77
進んで取り組むことができた	92	77

重点をおく資質・能力の「課題発見・解決能力」と「主体性」について、高い肯定的評価となったことから1年間を通じて児童生徒が高い意識をもって授業に臨んでいたと思われる。

成果として次の2点を挙げる。

- ① 全ての学年で地域について扱い、大竹についての理解や思いを深めていくことができ、環境への取組や働きかけを具体的な行動にできた学年が多くあり、社会への貢献、還元につながる取組が見られた。
- ② 思考ツールやリフレクションシート等の工夫や活用で、児童生徒の思考の深まりが見られ、ルーブリック評価の活用により児童生徒の見取りについての理解が進んだ。

(2) 課題

- ① 生活科・総合的な学習の時間で学んだことを他教科や生活場面で生かしたり、他教科での学びを生活科・総合的な学習の時間で活用したりできる姿は、まだ一部に限られるので、今後は、生活科・総合的な学習の時間と他教科、生活場面が双方向の学びとなるよう高めていきたい。
- ② ルーブリック評価を取り入れ、評価規準の設定にあたっては子供たちとの共有化を図ってきたが、教師主導になる面もあったので、今後は、子供たちと一緒に、目指す姿を共有できる評価規準を作っていきたい。

(3) 今後の改善方策等

活動の主体を児童生徒として進める中で、資質・能力の伸長を目指してきた。2年間の研究を終えて、先に挙げたように、一定の成果が見られた。今後も、活動の主体が児童生徒となるような本物の探究を目指して、これまでの取組を継続する中で、生活科・総合的な学習の時間と他教科、生活場面が双方向の学びとなるように教師のファシリテート力を高めていくようさらに研究を深めていきたい。